



2026 KYOJO CUP RACE REPORT

FUJI SPEEDWAY

Rd.2

7.18[sat] - 19[sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sat 曇り/雨 sun 曇り

[spectators] 56,000人

※スーパーフォーミュラと併催。金・土・日曜3日間の合計

Rd.1	FUJI SPEEDWAY	MAY 9 - 10
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	JUL 18 - 19
Rd.3	FUJI SPEEDWAY	SEP 5 - 6
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	OCT 10 - 11
Rd.5	FUJI SPEEDWAY	OCT 31 - NOV 1

TOM'S

スーパーフォーミュラと併催のRound2で、 斎藤愛未がついにファイナル初優勝！ バートン・ハナも7位入賞を果たす。

QUALIFYING/SPRINT

QUALIFYING 天候:曇り | 気温:25℃ | 路面温度:25℃ SPRINT 天候:曇り | 気温:28℃ | 路面温度:38℃

2026 KYOJO CUP Round2 が 7 月 18 日・19 日に富士スピードウェイで行われた。雨上がりで路面が濡れているなかで行われた公式予選で、#36 斎藤愛未が今季初となるポールポジションを獲得。#37 バートン・ハナも好調な走りをみせたが、最後にミスがあり 6 番手となった。

18 日(土) 13 時 05 分から行われたスプリント(10 周)で、斎藤はスタートからポジションを落としたが、最後までトップ争いを展開。僅差で 2 位フィニッシュとなった。6 番グリッドからスタートしたハナも、序盤に 10 番手まで後退したが、粘り強く追いついて 7 位でチェッカーを受けた。



FINAL

天候:曇り | 気温:30℃ | 路面温度:41℃

19 日(日)のファイナルは、スプリントの結果順でグリッドに整列し、15 周で争われた。2 番グリッドの斎藤は、前日の惜敗からライバルの攻略法を一晩かけて研究。序盤から接近戦のバトルを繰り広げながら、絶好のチャンスを見定めていき、中盤の 8 周目でオーバーテイクに成功。ライバルも手強く、終盤まで接近戦の展開が続いたが、斎藤はトップの座を守り抜いて、今季初優勝を飾った。フォーミュラカーでの、ファイナル初勝利となった。

7 番グリッドのハナも 1 周目で 3 つポジションを下げたが、中盤から後半にかけて追いつき、7 位フィニッシュでポイントを獲得した。



RESULTS

QUALIFYING	
1 位	

SPRINT	FINAL
2 位	1 位

QUALIFYING
P1/1'52.477

Sprint
P2/1'45.772 Fastest Lap

FINAL
P1/1'46.367 Fastest Lap

DRIVER'S RANKING
1 位 TOTAL POINTS 47

#36 斎藤 愛未 | AIMI SAITO
SCS TEAM TOM'S | SCS TOM'S KYOJO KC-MG01

RESULTS

QUALIFYING	
6 位	

SPRINT	FINAL
7 位	7 位

QUALIFYING
P6/1'52.805

Sprint
P7/1'46.740

FINAL
P7/1'47.080

DRIVER'S RANKING
8 位 TOTAL POINTS 9

#37 バートン・ハナ | HANA BURTON
SCS TEAM TOM'S | SCS TOM'S KYOJO KC-MG01

TOM'S

Driver
齋藤 愛未

今までの勝利のなかで、一番嬉しい1勝です。スプリントでは何回かチャレンジしましたが、追い抜ききれず、悔しい思いをしました。そこから、いろんな人に攻略法を聞いて回って、ファイナルではそれを全部試したという感じでした。スプリントでは冷静さを欠いて、仕掛けるタイミングが早かったのを、それを踏まえてファイナルでは自分のベストなタイミングを見極めて仕掛けることができました。

次戦も、周りをもっと努力して速くなってくると思うので、私も負けないようにしっかり準備して、最終的にチャンピオンを獲れるよう頑張ります。

Driver
バードン・ハナ

予選はすごく良くて、ポールも狙えるペースで走っていましたが、最後にミスをして6番手になりました。スプリントは難しかったというか、セッティングに課題がありました。ファイナルに関しては1周目のバトルでポジションを落としましたが、前日からセッティングを変えて、かなり良くなって、最終的に7位でチェッカーを受けました。クルマが安定していたので、この流れを次戦のRound3にも繋げていきたいと思います。あとは、レース序盤の混戦状態でもしっかりペースを上げて走れるよう改善していきたいです。

Team Director
伊藤 大輔

齋藤選手はスプリントから勝てるだけのパフォーマンスはありましたが、2番手と悔しい結果になりました。ただ、ファイナルは15周と長いので、ライバルを攻略するチャンスはあると思っていました。きちんと相手の出方を見て対処すれば、必ず抜けると確信していました。ハナ選手は、1人で走っている時のパフォーマンスは良いのですが、レース序盤のように混戦状態の中だと、まだ課題があります。彼女もそこは自覚しているので、今後の成長を期待したいです。



E C S

STELLAR CURATION SUPERVISION

GR TOYOTA
GAZOO
RacingGR
TGR

BRIDGESTONE

AZAPA

カロしす
カロ-ワ静岡

KINTO

熊本トヨペット

SAISHUNKAN
GROUPTAKAMA
COMPETITION
PRODUCTS